

大腸内視鏡（大腸カメラ）検査についての説明・同意書

この説明書を事前によくお読みいただき、内容をご確認のうえ、必要事項のご記入とご署名欄に署名をお願いします。当院では日本消化器内視鏡学会専門医が責任をもって検査にあたります。ご不明な点がありましたら遠慮なくご質問ください。

1. 検査の目的

大腸内視鏡検査は、直接、大腸の中を観察し、炎症、潰瘍、癌などの病気を見つけるために行います。レントゲンと注腸製剤による注腸透視検査に比べて、小さな病変を発見しやすく(早期癌など)、生検(病変の一部3mm程度を採取)で病理学的な診断が可能です。

2. 検査の方法

当院では、検査前日から食事制限（専用の食事も取り扱っております。別途自費にて1000円頂きます。）を行います。

- ①前日の夜に下剤（錠剤）を飲んでいただきます。さらに、検査当日にご自宅で早朝から下剤（液体）を飲んでいただきます。
（患者様によっては処方がない場合もございます。当日の下剤は院内で服用する場合があります。）
- ②検査当日は受付にお越しいただき、便の性状を確認致します。もしまだ腸管がきれいになっていない場合は追加で下剤を服用してもらうことがあります。（院内で下剤を飲む方は当日朝外来にお越しください）
- ③検査前に点滴の管を留置します。腸管の動きを抑える薬と希望により鎮静剤を投与し、内視鏡を肛門から挿入します。早い方では10分程度で検査が終了しますが、ポリープの切除などを行う場合は20分前後かかる方もいます。

小さなポリープは日帰りで切除しますが、大きなポリープについては1泊入院して頂きますので、1泊入院できる最低限の準備をお願い致します。当院での切除が困難と思われる巨大なポリープや癌が疑われる病変が見つかった場合は当院での切除ができませんので、総合病院に紹介致します。

大腸内視鏡検査で過去につらい思いをした方、初めて内視鏡検査を受ける方は鎮静剤（静脈投与し、一時的に眠ったにする薬）を使用することでほとんどの場合は楽に検査を受けることができます。

検査が終わった後は1時間ほど別室で休憩して頂きます。

過去に歯医者などでうけた麻酔薬のアレルギーがある方は申し出てください。



3. 新型コロナウイルス感染リスクについて

内視鏡検査では、エアロゾルが発生する場合があります。周囲への感染リスクがあります。大腸内視鏡検査においても送気量が多くなりがちであり、排ガスの頻度も増加し、結果として飛沫感染リスクを高めます。

- 1) 新型コロナウイルスへの感染状態に関する問診や体温測定の結果次第では延期あるいは中止になる可能性があります。
- 2) 内視鏡検査に際しての感染対策は万全を期しているものの、内視鏡検査室や待合室にいる間にウイルスに暴露する可能性があります。

4. 検査当日の注意事項

検査当日の朝は絶食で来院してください。水・スポーツ飲料・お茶は構いません。

血圧・喘息・心臓のお薬は、検査当日朝服用してください。

※糖尿病で治療中の場合、糖尿病のお薬は服用しないでください。インシュリンの自己注射はしないでください。

